

令和 7 年 9 月 南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質 問 者	日程
1	11	塩 川 裕 紀	8 日 (月)
2	14	寺 口 友 彦	
3	6	田 中 せ つ 子	
4	7	中 沢 道 夫	
5	8	永 井 拓 三	
6	4	目 黒 哲 也	
7	9	勝 又 貞 夫	9 日 (火)
8	13	佐 藤 剛	
9	16	鈴 木 一	
10	18	牧 野 晶	
11	19	桑 原 圭 美	
12	5	梅 沢 道 男	
13	10	吉 田 光 利	1 0 日 (水)
14	2	川 辺 き の い	
15	3	大 平 剛	
16	15	中 沢 一 博	
17	22	関 常 幸	
計		1 7 名	

【質問方式】（質問制限時間は、いずれも答弁時間を含め 60 分）

一括質問一括答弁方式： 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。
（初回は登壇して行い、質問回数は 3 回まで。）

一問一答方式： 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式： 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。（質問回数に制限なし）

質問 順位	質問 内 容
1	児童生徒の不登校について 文部科学省が毎年度実施している調査の令和５年度の結果によると、小中学校の不登校児童生徒数は過去最多を更新した。不登校の問題は一部の子供たちの問題ではなく、その対応は全国的に大きな課題となっている。市においても例外ではなく、少なからず学校に行けない子供たちがいる状況にある。そこで、市の現状と今後の取組について伺う。 (１) 市の小中学校における不登校児童生徒数の推移を県や全国の平均と比較して、どのような特徴があるか。 (２) 不登校児童生徒と保護者のニーズに合った支援の現状は。 (３) 在宅学習やリモートでの授業参加を認める柔軟な対応について、市の方針は。 (４) メタバースを活用した、自宅に居ながらオンラインで通える居場所を整備する考えは。 (５) 不登校児童生徒の個々の能力、長所を伸ばす支援の現状と今後の考えは。
議席	
11	
塩川裕紀 (一問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
2	1 保育園適正配置について
議席	保育園適正配置の基本的な方針として、複合施設を加える考えはないか。
14	
寺 口 友 彦	2 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金について
	市の保有する遊休地に太陽光発電所や蓄電池変電所など、新たな視点での企業誘致を調査研究する時期ではないか。
	3 官民連携手法ウォーターＰＰＰ導入について
	ウォーターＰＰＰ方式で、市の上下水道事業をどう変えようとしているのか。
(一問一答方式)	4 道の駅再整備事業について
	国土交通省の集中降雪時も含めた防災機能強化と市の防災基地としての道の駅南魚沼をどう連携させていくのか。

質問 順位	質問 内 容
3	ゆきぐに健友館 A I を活用した健康づくりの推進について
議席	
6	
田中せつ子 (二問一答方式)	新聞報道では、厚生労働省が令和 8 年度から住民のがん検診受診歴を努力義務として市区町村で把握する仕組みを導入している。 市では令和 8 年度に浦佐にある健友館がゆきぐに健友館 A I として南魚沼市民病院隣に新築移転し、健診事業を開始する。しかし、具体的な申し込み方法や移動手段等の内容は示されていない。総合計画の基本施策「こころとからだの健康づくりの推進」として掲げている健康診査内容の充実と受診しやすい環境整備が重要と考える。 (1) 令和 6 年度の特定健診（国保ドック・集団健診）受診率目標値は 60%であったが、その取組と評価は。 (2) 新健診施設の新たな食育や交流スペース等を活用して、受診率アップにつなげる考えはあるか。 (3) 厚生労働省の通知では勤務先の健診も含めて住民の受診歴を把握することを努力義務とするというが、市の準備はどう進めるのか。 (4) 令和 8 年度の住民健診や人間ドックの申し込み方法や内容に変更はあるか。 (5) 令和 8 年度 A I オンデマンド交通の実証運行を開始予定とあるが、受診するための交通手段の確保はいつ具体的に示されるか。

質問 順位	質問 内 容
4	1 市民バスの利便性向上について伺う
議席	
7	
中 沢 道 夫 (複 合 型 一 問 一 答 方 式)	(1) ゆきぐに大和病院の診療所化に伴い、入院機能が市民病院に集約された。市民病院の受診者の利便性の向上も含め、大和地域包括医療センターから市民病院への直通バスを運行する考えはないか。
	(2) デマンド交通導入に向けた検討は。
	(3) 公共交通の確保は、市民に対する重要なサービスだと考えるが、市長の認識は。
	2 米の価格高騰の下で米政策に対する市長の考えを伺う 今回の米の価格高騰は、生産者の間では歓迎する声もあるが、逆に米離れによる価格の暴落を心配する声も聞く。そうした点から伺う。 (1) 主食米の安定供給は、国民に対するインフラ整備だと考えるが、市長の認識は。 (2) 米の安定供給には、農家に対する所得補償・価格保障が欠かせないが、農業者戸別所得補償制度の復活や中山間地等直接支払制度の充実を求める考えはないか。 (3) 新規就農者を確保するための市独自の取組は。

質 問 順 位	質 問 内 容
5	市内共通リフト乗車証について
議 席	
8	
永 井 拓 三 <	

質 問 順 位	質 問 内 容
6	南魚沼の食のブランディングに向けて
議 席	
4	
目 黒 哲 也 (一問一答方式)	日本政府観光局の調べによると、今後行きたい旅行先として、東アジア・東南アジア地域では、10 市場中 9 市場で日本が選択率で首位、欧米豪・インド・中東地域でも大半の市場において日本の選択率が上位 5 位以内となった。 国外旅行実施者の国外旅行先での行動では、全ての地域において「その土地ならではの料理」が 5 割弱を占め、最も多い。国外旅行を行う際の主な目的に関する設問では、「ガストロノミー・美食」を選択した回答者が最も多く、その推計市場規模は 1 億 4,500 万人に上る。いずれの地域においても、「ガストロノミー・美食」は、主な目的として上位 5 位以内に入っているが、特に東アジア地域においては、最も多く 5 割を超えており、食を重視していることが分かる。 このように旅行における食への関心は非常に高い。良質な水、豊富で質の高い食材、伝統的な食文化のある南魚沼の食のブランディングに向けては、地域と共に創り、長い年月をかけて育んでいくことが重要である。そこで将来的な構想として以下の 5 点について伺う。 (1) 食に注目する自治体の増加により競争は激化している中で、どのように南魚沼ならではの地域資源の価値を共有し、維持・活用に向けた体制を整備していくのか。 (2) ブランディングを支える生産者や料理人等の育成や支援は。 (3) ブランディングに向けて、国が進めている官民共創拠点「農林水産地方創生センター」を創設し、官民共創で南魚沼の食を育んでいく考えはないか。 (4) 世界トップクラスの料理専門学校カリナリー・インスティテュート・オブ・アメリカと提携する考えはないか。 (5) ユネスコ食文化創造都市を目指す構想はあるか。

質問 順位	質問 内 容
7	1 水道事業の衛生管理について
議席	畔地浄水場の大型水槽や配水池、管路などの衛生管理をどのように行っているのか。
9	
勝	2 城内診療所の今後の運営について
又	城内診療所が市民病院の附属機関になり、週1日半の診療で2年が経過した。その経営全体の問題点があるとすればどのようなことか。今後、診療日数を増やす考えはないか。
貞	3 市の予算書・決算書の書式について
夫	県外の自治体の予算書・決算書を見ると、当市のものよりさらに分かりやすい書式のものがある。今後、検討してみるのもよいと思うが、市の考え方を問う。
	4 防犯カメラと公用車のドライブレコーダーの設置について
	(1) 公共施設の防犯カメラの今後の設置予定は。 (2) 市が所有する公用車のドライブレコーダーの設置状況と今後の予定は。

(二問一答方式)

質問 順位	質問 内 容
8	1 不登校児童生徒に学校だけではない自立のための学びの場を
議 席	
1 3	不登校支援の在り方として、従来の学校復帰を中心にした支援から、子供たちが安心できる場所で自分のペースで学び、自立、生きる力を培う学校だけではない学びの場として、子ども・若者相談支援センターの機能の充実が必要ではないか。 また、誰一人取り残さない学びの保障に向け、県下でも学びの多様化学校設置の動きもあるが検討の考えはあるか。
佐 藤 剛	2 少子化と高齢化が同時に進む将来を見据えた行財政運営を (1) 人口減少が続く中で山積する行政課題の解決には、確実な財源確保と将来負担を見通した財政計画が必要だ。さらに不確実性の高い時代に実効性ある財政計画のためには毎年为社会情勢、経済情勢を分析し、更新する中期財政フレームの作成と公表が必要ではないか。今進めている次期財政計画の方針と進捗はどうか。 (2) 多くの行政課題の解決には、政策展開過程での市民参加で市民の理解と信頼を得ることは欠かせない。このことで、限られた財源の中でも市民が満足できる効果的、効率的な事業成果につながると考えるが、市民参加をどう進めるか。 (3) 人口減少、高齢化が進む中で、まずは今住む市民が暮らし続け、さらにその上で人の流れ、経済の流れにつながる環境整備が必要だ。 そのための第一歩として、立地適正化計画の浦佐地区都市機能誘導区域への商業施設の誘致で、立地環境と地域資源を最大限生かす施策が必要ではないか。
(二問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
9	1 土地改良事業について
議 席	
1 6	(1) 土地改良事業について、国ではなく、県の要件として耕作地の20%は米以外の作物を作れという方針である。この県の要件で土地改良事業が頓挫している地区がある。市としてどう考えているか。これの撤廃を県に求めるべきではないか。 (2) 仮調印が終わって、採択まで何年もかかる。工事完了には10年ほどかかる。その間に後継者がいなくなり、集約も進まず、米農家が減少していく。市としてどう考えているか。
鈴 木 一	2 民泊の法規制について 全国的にインバウンドによる旅行者、日本人も利用すると思われる民泊の軒数を市として把握できているか。また、消防等による法的な規制があるのなら、査察の具体的内容について伺う。 3 コンサルタント委託について 給食センターの建て替えや道の駅再整備等をコンサルタントに委託する意味はどうかを伺う。
(二問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
10	1 市内の人手不足・若者定住対策の推進を
議席	
18	
牧 野 晶 （一問一答方式）	(1) 南魚沼市はたらく若者奨学金返還支援事業補助金について、奨学金返済を支援する趣旨はよいが、条件が厳しいと感じる。人手不足の状況を考えると、もっと簡潔明瞭で、市が支援をしているというメッセージを込めた制度設計にすべきと考えるがどうか。 (2) 奨学金を借りていない人とで不公平になるという考えに対して、市内に若者が残って一定期間就労したら祝い金を支給するという方法は一つの不公平感の解消になるのではないか。 2 雪国での車の自動運転への取組を 雪の降らない地域と比べ、雪国での自動運転のハードルは高いと感じる。雪の降る地域での自動運転への取組を研究するべきと考えるがどうか。

質問 順位	質問 内 容
13	1 南魚沼ブランドの発信と育成について
議席	
10	
吉田光利	市長は就任以来トップセールスマンとして南魚沼ブランドの発信と育成に注力し、ふるさと納税返礼品での地域産業の活性化や財政健全化に大きな成果を上げた。全国的に南魚沼ブランドの知名度は格段に上がり注目されている。 (1) 全国的な南魚沼ブランドの知名度の変化をどのように分析しているか。 (2) 南魚沼ブランド力向上を図るための発信戦略は。 (3) さらに成長には、米に次ぐブランド育成が必要であるが、どのように考えているか。 2 医師不足解消の取組について 医療のまちづくりでの総合努力により、医師不足の改善を図っているが現状の取組を伺う。 (1) 現状の医師充足度はどのように捉えているか。 (2) 開業支援は有効な医師確保施策だと思うが、手応えと反応は。 3 本庁舎外壁整備について 市の顔である本庁舎外壁の汚れはイメージダウンであり、最優先に修繕すべきではないか。
(一問一答方式)	

[illegible]

質問 順位	質問 内 容
15	1 ごみ収集について
議席	(1) ごみ収集における分別不足による未回収の現状と今後の対策は。
3	(2) 新ごみ処理施設建設後の収集運搬業務の考え方は。
大 平 剛	2 市役所の職場環境の整備について この夏、冷房設備の不調で本庁舎内の温度、湿度が適切ではない日があると感じたが、実際の状況と今後の対策について問う。
(一問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
16	1 少子高齢化社会に向けた今後の具体的施策について 市においても少子化の進行は深刻な課題であり、地域の持続可能性を左右する重要なテーマである。子育て世代が安心して暮らし、地域に根を張るためには、行政による包括的かつ先進的な支援が不可欠である。あわせて高齢者が安心して暮らし続けられる地域づくりへどう進めるか、具体的取組を伺う。 (1) 市独自の先進的施策である出産応援緊急5か年事業及び介護人材確保緊急支援5か年事業の評価と未来を見据えた発展的取組は。 (2) 超高齢化社会における12地区の地域コミュニティの具体的推進は。 また、高齢者の買物難民対策や移動手段の確保の進捗状況は。 (3) 在宅要介護高齢者家族手当の拡充を。 2 熱中症から命を守る学校の環境づくり推進について 猛烈な暑さが続く中、より安全な下校環境づくりをどう推進するか。多くの保護者から心配の声が寄せられている。 学校での教室等の環境づくりは、エアコン等の設置で完備した。今後は市として体育館の空調設備を急ぐ必要があると考える。 下校時と学校での熱中症対策として首を冷やす備品（ネッククーラーなど）の提供や支援が必要ではないか。
議席	
15	
中 沢 一 博	
(二問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
17	1 「農は国の基なり」南魚沼市の農業・コシヒカリについて
議席	
22	
関	先人の皆さんが汗と技術で今日のコシヒカリを築き上げた。そのコシヒカリは、ふるさと納税で名実ともに日本一の座に君臨した。さらなる高みを目指し、日本一の座を不動とするため、市民53,000人がコシヒカリの聖地と思い、様々な活動を展開する。 行政と農協と生産者と消費者と観光・商工業者が参加するコシヒカリの聖地推進協議会（仮称）を設立することが大切だと思うが、市長の考えを伺う。
常	
幸	2 「国の基はひとづくり」南魚沼市の教育・学力について 市内の小学生・中学生の学力は、新潟県・全国平均を下回っている。原因はメディア利用により、家庭の学習時間が少ないことである。学校現場では、その解決のために家庭の連携も含め学力を命題として対応しているがなかなか改善されない。 家庭での時間の過ごし方が問題なので道徳という視点から、親・子供・地域が共に学ぶことが、時間はかかるが学力向上につながると考える。 市の教育基本計画の真ん中に道徳教育を据えることについて、市長の考えを伺う。
(一括質問一括答弁方式)	3 南魚沼市の将来について 市民が最近、空き家が増え、年寄りばかりになり、子や孫たちの将来はどうなるのだろうと心配したり、不安をいただくようになった。 子供から高齢者まで全ての人を読める市の将来を描いた小冊子が必要だと思うが、市長の考えを伺う。 そして、直江兼続公が民のために掲げた義と愛を市のまちづくりの理念としたらどうか、市長の考えを伺う。

